

大学の進学状況について

全国的に大学の定員割れが増加

全国の高校卒業業者数（2024年）は91万9千人で少子化等の影響により1990年代前半と比べ約半分にまで減少した【図表1】。一方で、大学の数は90年代後半から20年代前半にかけて増加傾向にあり、24年は全国で813校（国立・公立189校、私立624校）に達し、90年と比べ約1.6倍となった。この間、私立大学の増加数は252校と大きく増えた。

私立大学の入学定員充足率（定員に対する入学者数の割合）は、90年には123.6%と高水準であった。その後、年々低下し24年には98.2%と100%を下回った【図表2】。現在、私立大学の約6割にあたる354校が定員割れの状況にある。

兵庫県内の大学進学率と進学者数

文部科学省の「学校基本調査」によると、大学等への進学率は1990年の全国平均が30.6%だったのに対し、24年には61.9%と約2倍に上昇した【図表3】。都道府県別では、進学率が最も高いのは東京都の74.2%で、兵庫県は68.6%で全国第5位に位置している。

また、各都道府県における進学率の伸びを90年と比較すると、全国平均の2.02倍に対し、兵庫県は1.74倍にとどまっており、進学率自体は高いものの、その伸びは小さい。

さらに兵庫県の進学者数は、24年は約2万6千

人となり、90年と比べて約3千4百人の減少となった。この間、県内の高校卒業業者数は約7万6千人から約3万9千人へと少子化の進行により半減した。このため、進学率が上昇しても、進学者数そのものは減少している。

兵庫県内での進学と就職

兵庫県の高校生のうち、地元・兵庫の大学に入学したのは約1万2千人で、大学進学者全体（約2万6千人）の半数に満たない。また県内高校生の進学先は大阪府が約7千3百人、京都府が約2千5百人、東京・神奈川県が約1千人となっており、これらの地域では転出が転入を上回り、年間で約5千人以上の転出超過となっている【図表4】。問題は、進学を機に県外へ出た学生がそのままその地で就職するという形で、若者の転出を増大させている実態である。講義等の空き時間を使って就職活動を進める学生にとって、大阪、京都、東京、神奈川には大学周辺に魅力のある企業が多くあり、就職先として選ばれやすい。

一方、兵庫県内の大学に進学した学生にとって、県内の企業が身近にあり、インターンシップなどを通じて就職先として意識されやすくなる。つまり、若者の転出を減らす方策の一つが、進学の間階で県内大学を選択してもらうことである。そのためには、県内の大学は地元の高校生に「ここで学びたい」と思ってもらえるよう、教育内容や研究環境を整備するなど魅力を高めていく必要があると考える。

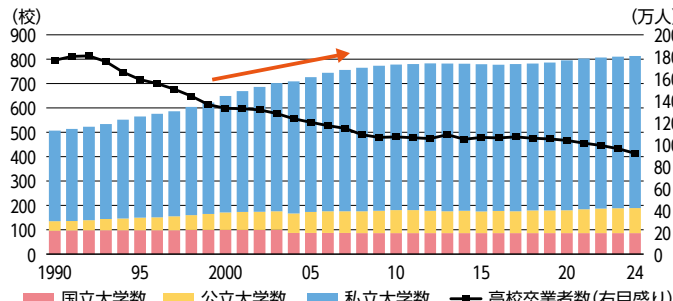
（上席研究員 河村 真二）

【図表3】 都道府県別 大学等の進学率と進学者数

都道府県名	2024年			1990年			90年比	2024年			1990年			90年比
	進学率(%)	順位		進学率(%)	順位	(倍)		進学者(人)	順位		進学者(人)	順位	(倍)	
東京都	74.2	1		33.1	17	2.24		69,369	1		56,890	1	1.22	
京都府	74.0	2		33.8	13	2.19		15,370	11		12,980	12	1.18	
神奈川県	69.4	3		27.3	32	2.54		41,722	3		29,864	5	1.40	
大阪府	68.9	4		31.5	23	2.19		43,229	2		42,627	2	1.01	
兵庫県	68.6	5		39.4	2	1.74		26,813	7		30,295	4	0.89	
全国平均	61.9			30.6		2.02		12,100			11,488		1.05	

資料：文部科学省「学校基本調査」より作成

【図表1】 全国の高校卒業業者数と大学数の推移



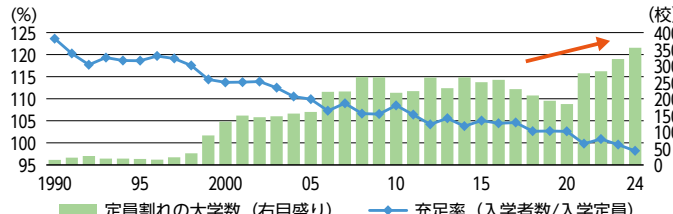
資料：文部科学省「学校基本調査」より作成

【図表4】 大学入学者の状況（2024年）

都道府県	A (転入) 兵庫県内の大学に入学した 高校生の出身地	B (転出) 兵庫県の高校生の進学先	A－B
兵庫県	12,879		
大阪府	4,702	7,362	▲ 2,660
京都府	717	2,589	▲ 1,872
東京・神奈川県	217	1,088	▲ 871

資料：文部科学省「学校基本調査」より作成

【図表2】 定員割れ私立大学数と入学定員充足率



資料：日本私立学校振興・共済事業団「私立大学等入学志願動向」より作成